

TEKU—TEKU深谷まち歩き活動報告

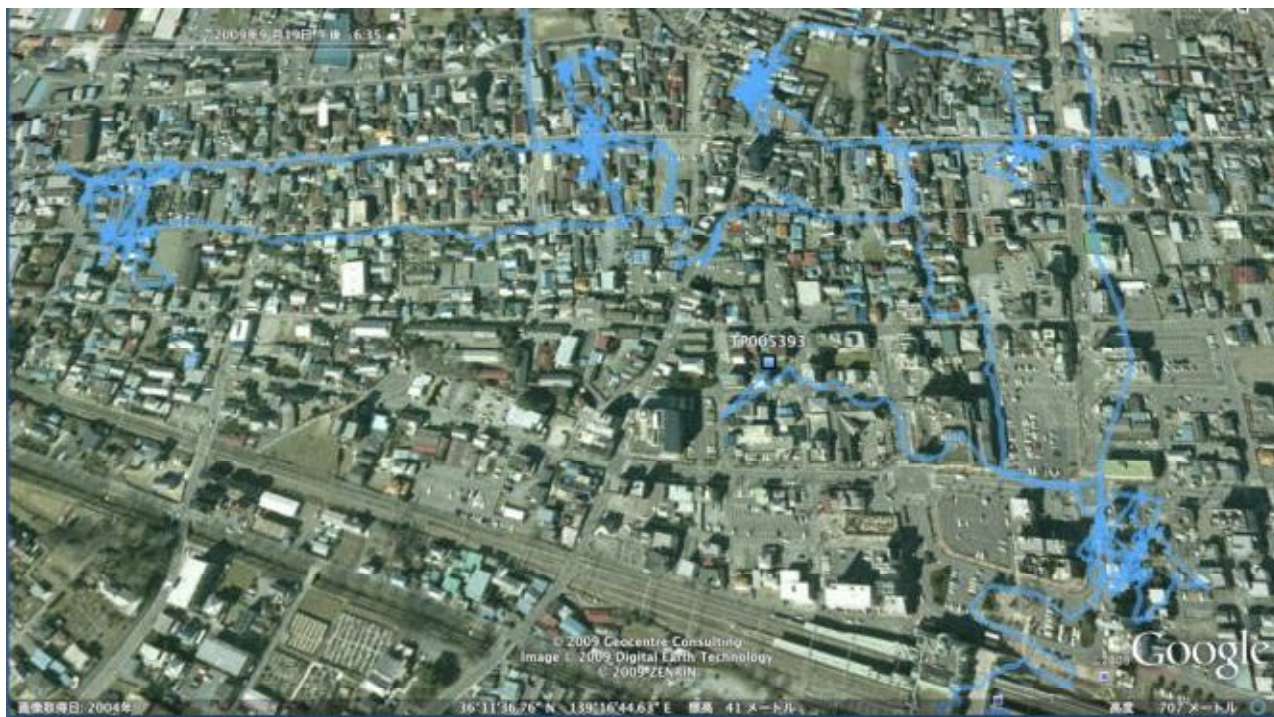
○日時:2009年9月19日(土)13時35分～17時

○テーマ:歴史的建造物を活かしたまちづくり

○企画趣旨:深谷は、江戸時代、中山道の宿場町であり、明治維新後の日本経済界で活躍した当地出身の渋沢栄一らにより日本煉瓦製造会社の工場が建てられた町でもあります。宿場町に当たる旧市街地は土地区画整理事業が進められている中で歴史的建造物の活用が課題となっています。

今回は、旧七つ梅酒造跡で10月24日、25日に開催される埼玉住まい・まちづくり交流展のプレ企画として、煉瓦倉庫など歴史的建造物のサブリース事業などを展開する NPO 深谷にぎわい工房のメンバーの方に中心市街地(旧深谷宿)の歴史的資源と地元 NPO 等の取組をご案内いただいた。

○まち歩きコース:旧田中藤左衛門商店(旧七ツ梅酒造)→糸谷(翁最中)→坂本邸→滝澤酒造→福島邸→小林商店→浜岡屋(明治大福)→深谷シネマ→塚本商店→常盤園→仲町会館→菊寿童→深谷れんがホール(意見交換会)→シェ・オーサワ(深谷レンガ)→ねぎ(打ち上げ)

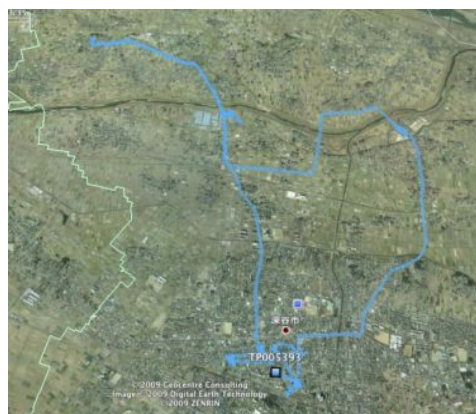


▲歩いたコース(青い線)

■オプション企画:9時50分～13時30分 渋沢栄一ゆかりの施設めぐり(下図タクシー乗合コース)

- ・コース:日本煉瓦製造株式会社旧事務所→ホフマン輪窯6号窯→誠之堂→清風亭→中の家(旧渋沢邸)→あいん(昼食)

○参加者:＊荒牧澄多、伊藤春樹、＊井手幸人、＊今泉誠、色川善一、＊大竹亮、＊大森享、小沢、＊小場瀬令二、＊小場瀬純子、＊梶川義実、＊加藤栄子、金子茂正、＊草野律子、＊栗原徹、＊小平歩、＊呉祐一郎、＊清水俊哉、＊須藤充子、＊高梨健一、寺村映、



中村博行、西田敬、長谷川万里子、平塚信行、*平野隆、*森川肇、*矢口晴美、*八代克彦、*脇野真澄、*脇野陽子
コーディネーター：*古里実（以上32名）

○案内・協力：NPO 深谷にぎわい工房：松本博之、*大塚博、柳瀬崇、大沢永江 深町裕子
*印はオプションから参加

【参加者による評価】

（評価点の計算：とても良い A=5 点、良い B=3 点、普通 C=1 点、良くない D=1 点とした平均値）

1 まちを歩いた感想 AAAAAAABBBBBBBBCCDD【3.16】

A：中山道沿いの、商家を中心とした煉瓦造りの建築物に目を見張りました。コンパクトなエリアに集まっているので、地図を片手に歩くことはできるが、歩道が狭く、建物を見学しながら街歩きをするには危険な場面もあった。

A：煉瓦造りの建物が日常的に建築され使われていたことに改めて感激しました。国内では歴史的建造物と言えば通常木造建築物であることが多いわけではありますが、深谷のように町中にあるのが非常に特異（異国的）な感じがしました。

A：特に深谷宿の町並みが良かった。田園地帯の中に、昔の瓦工場が残っているのはすばらしい。河川敷近くの雄大な風景、古い集落、宿場町と言う、3つのテーマで、まち歩きが出来たと思う。

A：午前のホフマン輪窯は感動しました！貴重な体験ありがとうございました。午後のまち歩きも、NPOの熱心な活動に触れられたもの良かったです。行田のときみたいに、くたくたになるまで歩かなかったのも良かったです。

A：－

A：－

B：レンガ造りの建物がそれぞれに魅力があった、色々な角度から煙突が違う見え方をしていました。

B：裏路地は、雰囲気がありました。

B：かつて栄えた中山道深谷宿の風格が、いくつかの立派な商家や蔵に残っていた。特に、煉瓦づくりの建造物が多く、渋沢栄一ゆかりの町であることを感じさせた。そして、酒蔵やシネマ、ギャラリーランチなど、訪れると楽しそうな雰囲気が伝わってきた。しかし、すでに町並みは連続しておらず、道路拡幅と移転で建物が無くなって空き地が目立つ区域も多く、今後がとても心配される。

B：宿場町として或いは近代産業遺産としての歴史的資源は点在ながらよく残っている。しかし、街並みとして残っていないのが残念。区画整理により空き地が目立つ。

B：それぞれの建物は興味深かったが、深谷宿としてのまとまりやストーリー性に欠けていた。

B：旧中山道沿いは歩道もそれなりに整備されているものの、一本裏道に入ると道幅が狭いわりに車の通行量もそれなりに多く、町歩きには若干不向きかもしれないと思いました。

B：ホフマン輪窯、誠之堂、清風亭、渋沢栄一生家など見応えがあった。市内の建物も楽しめたが、七つ梅など今後の整備が楽しみである。

B：深谷にこんなに歴史的な建物が残っているのにびっくりしました。誠之堂、清風亭が中心市街地の近くにあれば歩いて回れるのですが残念。

B：丁寧でわかりやすい解説があったのでよかった。

B：－

B：－

C：NPOの活動はとても頑張っていると思いました。また今回は歩いていない城址公園付近などもいいところです。眠っている資源がこれから磨かれて、歩くことがもっと楽しくなる街になることを期待しています。

C：中心市街地の歴史的建造物や煉瓦を使った建物、郊外のホフマン輪窯や渋沢栄一ゆかりの施設など、魅力的な資源がかなりあるのだが、これらが連携しておらず、中心市街地も区画整理のために街並みの連続性が失われている。

C：全体的な印象は、ごく普通の地方都市というものです。駅前で区画整理事業を行った地区は、東京都内にしても、ほとんど全ての場合、以前の町並みは失われ、どこも同じ様な町並みに生まれ変わってしまいます。よほど事前に建物の造り方を決めておかない限り、そうになってしまうのは必然です。そういったことから、ごく普通の町だと思いました。

A：渋沢関連、D：深谷中心街、区画整理が致命的。

A・D：この評価基準では答えられません。点在する A とても良い場所が、点在に終わっていること、中山道が都市計画のために歯抜けの状態になっていて D 良くない。

D：(すみません！1日だけの感想です) まちにまとまった町並みがあるわけでもなく、核となる施設が充実しているわけでもない。

2 特に魅力的だったところ(○:旧市街地、●:郊外の渋沢栄一関連)

○旧中山道：緩やかにカーブしているところが良い。道路の広さと両側の棟の高さの関係が良い。両端の常夜灯が残っているのがすばらしい。古民家の残存率は高いのでは？

○旧田中藤左衛門商店（旧七ッ梅酒造）：300年の歴史の重みを感じる蔵。深谷シネマの移転が非常に興味深い。

○旧田中藤左衛門商店：大きな蔵の構造がなかなか見ごたえがある。大空間は昔から望まれていたのでしょうか。

○旧七ッ梅酒造跡：まとまって残っているのが良い。棟により建築年代が違う特徴があり、良い。中庭があるのが良い。

○旧七ッ梅酒造：残り方が凄かった。300年、借地だったことも驚き。

○旧七ッ梅：看板の迫力と酒蔵の大きさに圧倒されました。ぜひ有効活用してほしいと思います。



○旧七ッ梅：豪壮な商家の奥に広がる倉庫や住居、中庭のスケールに圧倒された。

- 旧七ッ梅：心ひかれる空間でした。
- 旧七ッ梅酒造：市民シアターの改築移転が楽しみ。
- 七ッ梅酒造跡地：－
- 滝澤酒造：大きく立派な酒蔵だった。酒蔵見学や飲み比べも楽しかった。



- 滝澤酒造：中心市街地に現役の造り酒屋があるということだけで十分に魅力的。
- 滝澤酒造：機銃掃射の跡が歴史を感じさせる。
- 滝澤酒造：判りやすい説明で日本酒の造り方が判ったり、建物も大事に使っているようで煙突が素晴らしかった。お土産に日本酒が好きな隣の席の人に持っていったら早速晩酌に飲んでくださり「生なので、香りがさわやか、辛口だけれども味はふくよかでお米のおいしい味もしましたよ」とのことでした。お土産から他地方へ知名度アップも出来ると思います。通販できますと伝えておきました。
- 滝澤酒造：煉瓦造りの煙突が印象的でした。厚さ 1m 程度に積まれているというのは少々驚きでした。
- 菊泉酒造の煉瓦煙突と酒蔵：－
- 菊泉（滝澤酒造）の大吟醸三年古酒：一升びんもあつという間になりました。もちろん煙突も素晴らしかった。
- 滝沢酒造&藤橋商店の煙突：煉瓦造りの煙突は初めて見ました。煉瓦の街の誇りです。
- 酒蔵のレンガの煙突：広島県の西条には多いが、深谷にもたくさんあった。



- 滝沢酒造とそのわきの路地：今回の路地で一番あじがあった。
- 滝沢酒造の路地：タイムトリップした感じでしょうか。
- 滝澤酒造と坂本邸の間の路地：狭さと両側の壁（煉瓦、土蔵）、正面の商家の看板がなんとも雰囲気がある。

○坂本邸：街道宿場町の面影を残す町家と蔵が端正で美しい。

○坂本家：旧中山道側から見たたたずまいが良かったです。

○深谷れんがホール：深谷信用組合倉庫の解体煉瓦を再利用したという煉瓦造りは、復元したピカピカの赤煉瓦の建築物がとても太刀打ちできない趣があります。木や土壁を生かしたシンプルなホールも洗練されていて、素敵です。

○レンガホール：この空間を提供して下さった方に頭が下がります。今後、さらなる活用を！レンガ探訪の地図なども貼って、ここを「レンガ探訪ステーション」にできるといいですね！

○深谷れんがホール：ここでの討論がすばらしかった。こうした建物を苦勞して改造し、イベント利用に開放しているのがすばらしい。



○深谷れんがホール：建物を残しつつ活用されているから。

○深谷れんがホールの前の道：いろいろな小さなお店が並び、味わいのある商店街。

○深谷駅：東京駅風に造ったことは知っていたが、もう少し、なんとかならないかと思う。

○小林商店：洋館風の商店と煉瓦造りの蔵が並んで、町に彩りを添えている。



▲小林商店



▲塚本商店

○塚本商店：見たことのない煉瓦積み町の町家建築にびっくり。今も燃料の商いを続けていて、快く店内を見せてくださった塚本商店の方に感謝です。

○塚本商店＋常盤園ほか：煉瓦造のうだつや蔵が美しい。ほかにも煉瓦を活かした建物がたくさんあった。渋沢栄一の町を象徴している。

○仲町会館：味わいのある木造洋館だが、痛んでいる様子がつらい。

○深谷シネマ：既存のビルを再利用した手作り感のある映画館がまちなかで多くの市民に支持されて運営されている姿は感動的でした。

○深谷シネマ：小さいながら活気があった。映画好きの手作り感がうれしい。

○深谷シネマ：市民が支える映画館が街中にあることがうらやましい。

○深谷シネマ：頑張ってください！！



▲仲町会館



▲旧銀行の建物を利用した深谷シネマ



▲深谷シネマ客席

○FUKADECK（中山道御休処）：商店街のポケットパークとしてセンスのよいスペース。

○活性化サロン一休：モダンなファサードがいい。中をのぞいてみたかった。

○フレール洋菓子店：レトロ調を感じさせるいい雰囲気。隣の理髪店もいい味。

○シェ・オーサワ：とにかくお菓子もパンも美味しかったです。

○あいん：まちなかにこうした親密なギャラリー&カフェがあるのがうれしい。ランチもおいしかった。



▲あいんのランチ



▲シェ・オーサワのお菓子（上段：深谷レンガ）

○たくさんの和菓子屋：あれほど個性的な最中が沢山ある街は知らない。

○たくさんの和菓子店：糸谷、浜岡屋、菊寿童など沢山の和菓子店をはしごできるこの集積は魅力です。



▲糸谷製菓店



▲菊寿童

○NPO深谷にぎわい工房の活動：場所ではありませんが、NPOの活動は、その熱意、着眼点、工夫などの点でとても優れたものだと思います。シネマなどをきっかけに、ぜひ多くの市民や市などとの取り組みの裾野を広げていって欲しいです。

●渋沢関連：すべてよい。深谷の中心街は今のままでは順次よさが失われていく

●旧日本煉瓦製造（株）煉瓦製造窯：内部の空間の神秘的な美しさ、日本の近代化を支えた歴史と文化財的価値いずれもすばらしいものだと思います。外観や周辺の環境が、もう少し当時の面影を伝える、あるいはイメージを大切にした公園等にする、などうまく活かしたらいいと思います。

●日本煉瓦：産業遺産として価値があると思う。

●レンガ工場：ホフマン式かまも残っており歴史的価値はかなり高いと思います。ぜひ、上屋を復元して周りの環境も整備すればすばらしいものになると思います。

●ホフマン窯：循環して煉瓦を焼くことができる構造となっていて興味深かった。

●ホフマン輪窯：楢円家の内部空間の迫力と輪窯の意味を知り感動。

●ホフマン輪窯：歴史的な重要性というだけではなく、その煉瓦で造られた洞窟のような空間には独特の魅力がある。

●ホフマン輪窯：中に入ることができてよかった。歴史の重みも感じた。工場全体について、できるだけ当時の姿を復元できないかと思った。栃木県野木町にも同様のものがあると知り、翌日確認に出かけてしまった。

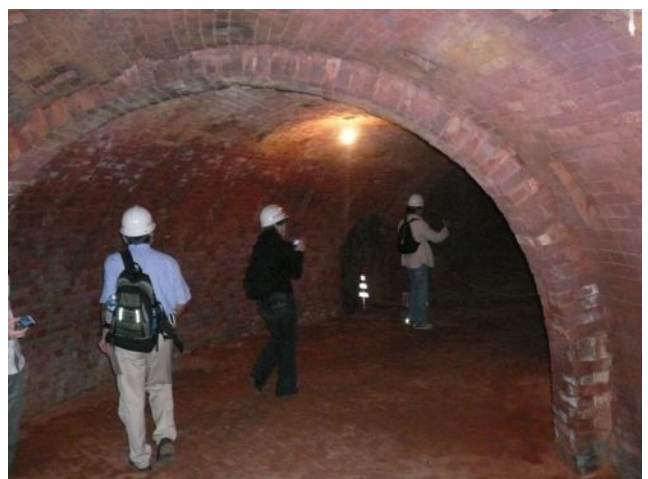
●ホフマン輪窯：歴史産業遺産として、その規模、保存状態ともに優れたものだと感じました。

●ホフマン輪窯：すばらしい遺構。もっともっと広く世に知らしめなければ。

●ホフマン輪窯：ここで、東京駅等のレンガが生産されたんだと考えると感激。

●ホフマン窯：以前に見学しましたが、なんか、圧倒されますよね。

●ホフマン窯：完全に開放される前から、日程的に部分開放できると、市内外の人々



に良さが理解されると思います。

●ホフマン輪窯：通常一般公開されていないところに入れたのが良かったです。

●誠之堂：よくぞ移築できたと感心した。レンガタイルの小口が美しかった。良いものは後世までいつまでも残したいとしみじみと感じた。

●誠之堂：建築物としても面白いと思いますし、市民が利用できる形で開放されていることも良いことだと思います。

●誠之堂、清風亭：どちらもとてもチャームिंगだった。



▲誠之堂



▲清風亭

●誠之堂、清風亭：どちらの建築も、細部まで丁寧に造られた、優れた近代小規模建築だと感じました。

●渋沢栄一生家：明治の豪農住宅の中でも、こんなに規模の大きな立派な建物はそうそう無いのではないのでしょうか。

●渋沢家の生家：本物は素晴らしい。



3 深谷のまちづくりへの提案

(1) 旧深谷宿、中心市街地の今後のまちづくへの提案

○中山道宿場町の風景がかなり消えてしまっており、商店街も賑わいに乏しい。しかし、現行の区画整理事業によってそれらは回復しないし、逆に歴史が培ってきた町の伝統的特性がすべて失われかねない。このままでは、町のアイデンティティの危機である。この町ならではの歴史特性を活かし、古い建物を再生したり、新しい市民活動の場に提供したりする試みを通じて、人の集まる場としての賑わいを取り戻す必要がある。まずは渋沢栄一にちなむのも一案で、中心街の煉瓦巡りイベントなど面白いのでは。

○まずは、歴史的建造物など、今あるものをきちんと残し、活用してゆくことが大切だと思う。区画整理で空地になっているところをどう埋めてゆくかも課題だが、あまり厳しい建築制限は現実的ではないので、外壁の一部に煉瓦を使うといった緩やかなルールにしてはどうか。

○赤煉瓦の建造物をできるだけ残して行ってほしいです。歴史を刻んだ煉瓦の味わいは、復元されたぴかぴかの煉瓦などにはとうてい出せない味わいがあります。

○古いレンガ建築を、活用しながら徹底的に残す。その際、そのいくつかは、渋谷栄一に関連付けたサテライトスタジオとする。それと同時に食関連を充実させれば、深谷市の住民や近隣市町村の住民にとっても魅力的な中心市街地になると思います。旧中山道に面する敷地の土地利用が、駐車場ではなく、やはり道路にそれなりに面した商業系になって欲しいと思いました。

○深谷ネギを食べれる店、深谷のレンガ、瓦の技術を活かしたものづくりショップ等を歴史のある建物等に埋め込み、深谷らしさが感じられる場が中心にできるといいですね。

「近代化産業遺産」ホフマン輪窯等の連携ができると東京から日帰コースとしてはより魅力的になりますよね。

○中山道沿いに点在する煉瓦建築を大切に活用しつつ、まずは歴史や煉瓦を活かしたまちづくりを進めることや、中心市街地に住みやすい環境を作っていくことへの賛同を広めていくことが大切な段階のように思います。そのためには、一つ一つの活動や運動をしっかりと根付かせながら幅を広げて行ってはどうでしょうか。市民のニーズを掘り起こす、深谷シネマの活動や、例えば高齢者が住み続けられる住宅、施設、サービスの提供とか、あるいは地域経済の振興につながる、おいしい老舗のお菓子屋さん群をもっとPRとか、深谷の新鮮な野菜の直売・料理の提供など、いろいろアイデアを出してぜひ頑張りたいと思います。

○深谷駅を中心とした界限性のある街づくり。旧中山道沿いの商店街の最盛期を再現するのは困難であり、意義がないように思う。しかし、深谷市民にとっての「街の顔」は必要であり、来街者に誇れる街とすることは可能であろう。

- ・深谷駅に深谷宿の歴史を解説するコーナーを造り、来街者に知ってもらう。
- ・区画整理事業で拡張した道路を活用して歩きやすくし、回遊性を高める。
- ・渋谷栄一を知り尽くし、その精神を学ぶためのコース設定と副読本を作成する。

○川越のようなまとまった町並みになっていませので、核となる蔵や施設の充実を図りそれを結ぶ道を整備して、関東にどこにでもある街だけ歩いていくと古い蔵やお店に出くわすという意外性があるまちになるとよいと思います。

○特に観光には力を入れないとのことであつたが、今後いかに中心市街地を活性化していくかが気になった。来街者を増やさないと、商店が衰退し、生活しにくい街になってしまうのではないかと心配になった。

○やはり、観光を意識すべきだと思います。観光という言葉から思い描くものが人様々なので、関係者の方々は悪いイメージを思い浮かべられるのではないかと感じました。良い意味での観光は必要です。

○区画整理事業により、幅の広い道路ができるようですが。車道を広くとらず、歩行者、自転車道を中心に道路を構成していく案はいかがでしょうか。エコなまちづくりを意識し、道路の構成と位置づけを検討する方向で。熊谷で車道を自転車道として利用する社会実験を行うようです。銭湯も捨てがたい？

○どこでもそうですが、歩行者優先のまちづくりを希望します。

○この10年の間で煉瓦造りの建物は大幅に減り、すっかり変わってしまったというこ

とですが、初めて訪れた私には、非常に魅力的な建築物がたくさんありました。廃業した旧家が多いことは、非常に残念であるが、一つでも多くの建築物が、生かされ利用されることを願ってやみません。

○10年前に比べて、歴史的な建物が半減しているとのこと。大変ショックな話です。市施行の区画整理事業は、残事業費の1/100の年間予算で進められているとのこと。このままでは、後100年かかるということですから、旧七ッ梅酒造の再生など歴史的建造物活用のビジネスモデルをわかりやすく市民に示すことが区画整理事業の見直しにつながっていくと希望も含め、期待しています。

○煉瓦ホールでの意見交換会でも何人かの方がおっしゃっていましたが、迫り来る区画整理事業に対し、今ひとつ働きかけが弱い（ない）ように感じますが…

○区画整理をやめる。どうしてもするならば基本的に現地曳き屋移転を基本にやる。

○やはり、遅まきながらも市街地改造型区画整理は休止して、これからのまちづくりのあり方をみんなで検討するべきと思う。道路幅員と建築物との関係が希薄になり、街としての面白さにかけてしまう。やり始めた公共事業を途中で止まるのは勇気ある決断が必要だとは思いますが市民の声を背景にした英断が必要だと思う。

○都市計画道路の計画があるということだが、拡幅には疑問がある。通りの中に、オープンカフェ、休憩所やポケットパークなど、「まち」を眺められる場所がほしい。商店街の皆さんと一体になったまちづくり活動が望まれる。「まちの駅」のような場所を設け、農産物の直売など、周辺の農村地域との連携がほしい。宿場通りを安全に歩けるような工夫がほしい（パークアンドライド）。映画のロケが行われた場所に、標識（どういう映画なのか）がほしい。

○歩いた感じ「金物屋」が多いようなので、これをキーワードにまちおこしができないですかね。

○「レンガと緑とエコ」の街にしていくために、計画途上の空き地で、朝市、花市、自転車ステーションなどで近隣と行政にアピールしていくことが重要だと思います。

○日本近代産業の祖である渋沢栄一ブランドを、まちづくり、産業振興等に徹底的に活かす。「郷土の偉人」として教育的な扱いだけではなく、むしろ現在の産業振興に活かしたほうが良い。北部の渋沢栄一関連施設への交通手段を、より利便性の高いものにする必要があると思いました。タクシー会社との協調はどのようになっているのでしょうか。タクシーを利用した際、そういった話は運転手さんからは聞かれませんでした。

食関連に物足りなさを感じました。深谷ねぎを使ったインパクトのある食べ物が絶対必要です。それと、家族や友人に買って帰りたいと思わせるお土産が必要です。

○意見交換会で、上柴地区に無い施設・設備を整えて、人を呼びよせたいと仰っていたように思いますが（勘違い？）、良い発想だと思います。上柴地区に無いものとしては、博物館の類でしょうか。深谷というと、幡羅や上敷免の遺跡から出土したものや渋沢栄一関連の品、ご案内いただいた際に坂本家でお話のあった天狗党の証文なども良いのではないかと思います。また、千曲市の稲荷山蔵し館のように、旧家を民俗資料館のようにすることも考えられるかもしれません。

今回、町歩きの時間が土曜日の午後、しかも連休初日だったせいかもしれませんが、旧中山道を歩く人の姿を殆ど見ませんでした。若者がたむろしてしまうと思いがけない影響が出てくるかもしれませんが、深谷商業高校、深谷第一高校の生徒が通学時に徒歩で歩き易いようにするという考え方もあるかもしれません。深谷駅を利用して通学していたころの記憶では、駅を降りると東へ向かい、中央陸橋のところで北に折れて東和銀行の北の道を東へ入って学校へ向かう生徒や、唐沢川ぞいを歩く生徒、あかね通

りを通して学校へ向かう生徒をよく見かけたように思います。その一方で、本住町交差点より西の旧中山道を歩く生徒はそれほど印象に残っていません。裏道は車の通行の影響を受けにくく歩きやすいことや、途中でデニーズなど生徒同士がおしゃべりできるファミリーレストランがあることなどが理由のように思いますが、この流れを旧中山道経由に変えられれば、一部ではありますが、活性化には良いのかなとも思います。ファミリーレストランを誘致すべしというわけではありませんが、旧中山道沿いには喫茶店のような長く留まれる感じのお店は少なかったように思います。あとは、仲町交差点の近くに自由に休憩できる場所がありましたが、商店の軒先にもベンチなどがあると良いかなと思いました。

（２）旧セツ梅の活用についての提案、助言

○シネマの移転によって多くの市民にこの建物を知ってもらうのは、いい機会と思う。他にも多彩な建物群があり、それぞれ持ち味を活かした再生利用が望まれる。資金がない中で方法が難しいが、例えば、桐生の有隣館のように市民主導のアートスペースとしたり、あるいはフリーマーケットなどでもいいのでは。とりあえず 使いながら、投資してくれる主体を見つけるのが現実的か。

○シネマとくれば、カフェや、「神谷バー」のようなレトロなバー、「葱屋」の屋号で深谷近郊の野菜を使ったエコ・レストランを出す（渋谷には実際に「葱屋」というわざとやぶれ障子などを使った和食屋さんがあり、結構な賑わいです

<http://www.kiwa-group.co.jp/restaurant/a100118.html>)。

○将来的には長野の「ばていお大門」のような活気のある空間になると良いですね。

<http://www.machidukuri-nagano.jp/patio.html>

○あんなに味わいのある空間に映画館ができるのですから、それに隣接して素敵なギャラリーカフェがあるといいなと思いました。太い梁などはぜひそのまま生かし、若いアーティストがこぞって作品を発表したくなるようなギャラリーと、地元産の野菜を使ったお料理や地酒、地元のお菓子が食べられるカフェができるといいなと思います。今もよく映画やドラマ撮影に使われるそうですが、もっと大々的に撮影に使われるよう整備＆PRしていくのも、映画館つながりでよいのではないのでしょうか。

○ある程度外から人を呼び込むことを前提として、「ここに来れば深谷の街がわかる」という施設にしたらいいと思う。（博物館や資料館のようなものではなく、現在の深谷の街と人の情報を発信する施設というイメージ。）

○地元のお酒を造ってきた場所であり、最も風格のある建物であることから、できれば深谷でできたものを売る、あるいは深谷に来た人がまずは立ち寄る場所にしたい。しかし、現状では来街者は少なく商売としてはすぐにはうまくいかないかも知れない。まずは宿場町、あるいは近代の渋沢栄一と深谷煉瓦、煉瓦造の建物を紹介するまちなかのミュージアム（資料館）や、シネマを契機に映画にこだわった情報館やグッズショップなどとしてはどうか。街は歩いて欲しいが、駐車場は欲しいところ。

○深谷の伝統（地元の粘土を用いたレンガ・瓦の製造）を活かし陶器等の製造現場が町中に見れて、購入できる場所になればいいなと思いました。

○具体的な提案は出来ませんが、少しずつ、修復して深谷宿の拠点にすることだろうと思います。現代の本陣です。桐生のやり方は参考になると思います。「セツ梅」の商標はとっておくと良いと思います。多少、費用はかかりますが、他に使われると厄介かもしれません。

○300年続いた「セツ梅」の商標ブランドだけでも深谷で活かす知恵を考えて欲しい。NPO

深谷にぎわい工房の活動資金としても活用できるのではないかな。

○すでに、深谷シネマが入るとのことですし、映画のロケーションを崩すのも、もったいないですよ。これぞというのはありません。ギャラリーとか、まちなか物産館（煉瓦の宿場町と農産物の郊外が繋がった）とか、セツ梅の名称もそうですね。

○現状では深谷シネマ移転もピンとこないのですが、移転し、人が集まるところになればと期待をしています。母屋の裏には蔵がいくつもあります。ほどよい広さの中庭で、娘はバッタや草花に興味を持って走り回っていました。この中庭を作りこまずに生かすことができたなら、シネマへのアプローチとしても魅力的なのではないかと感じました。

○それぞれの棟の特徴が違うので、様々な活用ができそう。中庭の活用が期待できる。

○全体平面図があると助かります。

○みんなでがんばる以外ない。きれいに出来れば自然と活用される。

○リピーターを増やすような仕掛けができるとよいですね。

○セツ梅の活用運動をきっかけにして、区画整理をはじめ旧市街地のまちづくりにいい影響を与えられればいいですね。

○施設の規模から言っても核となる施設になると思います。NPOで資金を募って整備を進めるというお話でしたがあの状態ですとかなり整備に費用が必要と思いました。勝手な話ですが、深谷市は合併しているので、まちづくり交付金事業を受けられるとすれば、中心市街地活性化を図る目的で、まちづくり事業として公設民営で整備してはいかがでしょうか？

○深谷シネマが奥に入りますから、入り口は市民が気軽に入れる店舗が良いと思います。そして建物の耐震性の問題ですが、登録有形文化財や景観重要建造物の指定などの仕組みを活用して、行政と専門家、市民が建物の価値を認め、協働で資金集めができないか検討してみてはいかがでしょうか？

○改めて言うまでもありませんが、老朽化がかなり進んでいるので、活用する際は、地震に対する補強が必要かどうか十分検討して、その対策を行って欲しいと感じました。

（３）シェ・オーサワ２階フロアの活用提案

○若い人たちが気軽に集まれる、こじやれたイタリアン居酒屋で、内装はホフマン輪窯のような煉瓦の洞窟イメージなんてのがいいのでは。

○駅前で空店舗、まわりも平面駐車場ばかりというのも寂しい限り。もちろん店舗か事務所になれば一番いいが、どうしても無理なら、賃料を大幅に下げて以前の学習塾の自習室として提供してはどうか。１階の洋菓子の売り上げに寄与するかも知れないし、生徒の姿が見えるだけでも今より寂しさは軽減するのでは。

○健康美容院などどうでしょうか。レンガ焼きは本当に美味しかったです。

○深谷の野菜や肉を食べられ、おみやげにできる店。信州屋さんとコラボすると、面白い（信州屋さんの豚の味噌漬けはものすごく美味しかった！）。

○駅が見える利点を生かして喫茶室にしたら待ち合わせ等に便利だと思います。

○喫茶室、市民が集える教室など。音楽、ダンスなど。

○れんがの固いお菓子、おいしかったです。家族にも大好評でした。旅人としては、れんがをテーマにしたカフェやレストランがあったらうれしいですね。

○「駅前アンテナショップ＋NPOカフェ」とかはいかがでしょうか？

○収益にはあまり結びつかないと思うが、町歩きの出発点、休憩地、情報基地として利用してはどうか。コーヒー、ケーキを１階の店舗で販売して、２階はフリースペースというイメージ。町歩きのスタート時にコースの説明等を行うなど研修室的な利用にも適

している。2階からは賃料がとれないが、帰宅時等に、ケーキの売り上げなどが増えるのではないかな。

○2階の提案ではありませんが、シェ・オーサワさんや街中の和洋菓子店が連携して「スイートタウン」として売り出してはどうでしょうか。深谷には沢山のお菓子屋さんがあると感じました。北海道の砂川市では洋菓子屋さんが連携してスイートロードと称して商店街の活性化を図っています。 <http://sunagawa-sweetroad.com/sweetroad/>

○2階の前に、まず1階の提案です。淡い色とはいえ、レンガ造りのお店は、深谷駅から中山道へ導く重要な拠点となりますから、深谷を訪れた人の誰もが寄りたくなるような工夫と賑わいが必要です。

そこで、看板に「レンガ焼き」（美味しかった！）の文字と形（できれば木やレンガを使って）を入れて、いざなう。

店内は、東京のスターバックスをはじめとするはやっているお店のほとんどがそうであるように、店の外に今、店内にあるようなテーブルと椅子を出す。店内では、硝子向きにおひとり様でも食べれるような作りつけの木製テーブルを置いて通りに面して、お洒落な気分で飲食できるようにする（渋谷のハチ公前のスターバックスをご覧ください）。店外にも常緑の観葉植物をおく。

2階は、イタリアンのお店を誘致してもと思いますが、1階と競合するようであれば、熟年層をねらって、NHKの文化講座のようなカルチャーセンターを誘致し、帰りに1階に寄ってもらえるようにする。東京の国立市では、NHK学園の帰りのおじさまとおばさままで、飲食店とカフェはいつも一杯です。

あるいは健康ブームにあやかった、ちょっとしたフィットネスを誘致し、硝子窓から中が外も良く見えるようにして、会社帰りの男女や近隣のおばさま達によってもるようにする。

○煉瓦のお菓子とっていたら、シェ・オーサワさんでつくっていました。商標の問題があるとは思いますが「日本煉瓦」とか「上敷免」とか焼き印とか入っているとさらに深谷らしいかな。

○横浜の芸術不動産モデル事業（行政の補助金によりまちを活性化してくれるアーティストに低価格でレンタルする。）等参考になるとと思います。

<http://www.yaf.or.jp/ycc/openstudio/main/toco/index.html>

4 あなただったら、深谷の魅力をどう伝えるか？深谷を知らない人にどう説明するか提案ください（できればキャッチコピー風に）。

○日本のレンガ発祥の地、渋沢栄一誕生の街。「レンガと緑とエコの街」をめざして。

○やはり「渋沢栄一」と「煉瓦」が他にない魅力だと思います。『日本の近代化を支えた渋沢栄一と煉瓦のまち』ということになるのでしょうか。

○「中山道宿場町 × 渋沢栄一翁 → 煉瓦のまちなみ」

○「渋沢栄一と赤煉瓦の故郷」

○やはり煉瓦ですね。東京駅の煉瓦をつくったまち。

○『ネギだけじゃない。渋沢栄一と煉瓦の街、深谷』

○「渋沢栄一の生地深谷：煉瓦工場、造り酒屋・・・」

○渋沢栄一の地でありながら野菜しかないと思われがちな街にレンガ蔵多数あり。

○「うだつの上がる深谷れんがの街」県内有数の農産地（花・植木・ねぎ・ブロッコリー・深谷牛・黒豚）でもあるのですが・・・魅力をどのように伝えたらよいのか？？深

谷ほうとう鍋をご堪能あれ。

○キャッチコピーにはまとまりませんが、深谷を発信するキーワードとしては、「渋沢翁」「煉瓦」「中仙道」でしょうか。

○「日本の明治時代は深谷から始まった」

○「明治・大正の香りがする赤れんがの町深谷へようこそ」

○「文明開化の街 深谷」

○「歩いた道を振り返ると、新たな景色が見えてくる。」

○「深谷の駅舎、見たことある？」

○「映画のセットに使われるレトロな建物が残る町」

○赤煉瓦とシネマのまち 一ちょっとお洒落な昔まちに来て見ませんかー

5 NP0深谷にぎわい工房に何を期待しますか？エールをどうぞ。

○旧中山道随一の栄華を誇った宿場町の面影が風前の灯火になりつつある中で、心ある人たちがそれを守り再生しようと頑張っている。町の未来のために行政がやるべきことを、彼らが気がつくまで、どんどん先を行ってほしい。

○魅力的な街は、行政主導ではできず、地元の人たちが街に愛着と誇りを持つことで生まれてくるものです。深谷にぎわい工房の方々が、自分たちの街を良くしようといけば、外から見ても魅力的になると思います。頑張ってください。

○渋沢栄一のまちづくりへの活用。東京駅復元時に合わせたイベントの仕込み。例：宮城県登米市との交流（東京駅のスレートは宮城県産）。東京都北区との交流。京都府舞鶴市との交流。

○「継続は力なり」と思います。映画を愛する人々から、多くの街を愛する人達を呼び込んで下さい。

○地域の皆さんの幅広い参加を目指して、活動を継続してください。

○皆さんの点を街にたくさん刻んで線につなげて安心して歩ける町にしてください。

○一つ一つ美しい建物に改修し、残していく活動を期待します。

○若い世代に継承される「まちおこし」を！

○地道な活動に頭が下がります。七ッ梅の復活も期待が高まります。

○旧七ッ梅の再生事業など、歴史的建造物のサブリース事業の成功を願っています。併せて、核となる商店の連携事業のようなものができないでしょうか？

○旧七ッ梅の活用を起爆剤に頑張ってください！

○ともかくがんばってください。

○まちづくりに積極的に関わってほしい、というのは部外者の勝手な物言いでしょうか。「身の丈」活動、それも有り。

○地元の人向けに今回のような街歩きを企画したらもっと自分達の街を理解して貰えると思います。

○お仕事のかたわら、地元の繁栄のために無償の努力をなさっておられる皆さんに心から敬意を表します。行政と街中市民と近郊住民を結ぶべく、ブログその他のネットワーク、空き地での朝市花市の開催、自転車ツアー企画など、現状から未来に向けて、さまざまな取り組みをしていかれることを願っています。

駅と中山道を結ぶ拠点として、シェ大沢さんが参加なさっていることは、とても大きいと思います。あそこからレンガホールまで、さらに幾つかの拠点（たとえば閉店になった薬屋さんを、緑か自転車の拠点にできるといいと思います）ができるといいですね。

○ご案内いただきどうもありがとうございました。一人でも多くの方に、深谷の街を歩いて、そして見てもらえたらと思っています。駅に、「まちめぐりガイド」のマップを設置してもらうことはできないのでしょうか？

○ NPO 深谷にぎわい工房はかなり頑張っているとおもいます。時代は常に効率化を求められていきますが、それだけでは物足りないものです。住んでいる人が元気になるように今後も活動을続けてください。

○地域作りの核となって、誇れる深谷のまちをつくってくださるようお願いします。

○意見交換会の際、住みよい町を作りたいと仰っていたかと思いますが、すばらしいことだと思います。頑張ってください。

○外部ファンクラブをつくり、年に一度ファンクラブの会等を開いてはいかがでしょうか？

6 その他、感想など

○午前中にオプションで渋沢栄一にちなんだ土地と赤煉瓦の工場跡を見て、午後に街中を歩くことで、赤煉瓦を軸に深谷の歴史がきれいにつながり、とても充実した街歩きができました。ぜひ同様のコースを深谷を訪れた人にも辿っていただきたいです。ただ、今のままでは交通機関がネックです。半日観光巡りでタクシーが割安になるサービスなどあれば、2、3 人で来ても廻りやすいのではないのでしょうか。全国でも貴重なホフマン輪窯は、ぜひ粉炭を投入する天井上の部分も復元し、常時一般の人が見学できるようになることを期待します。(Y.H)

○タクシーを使った郊外の渋沢ツアーと、歩いてじっくり味わう中心市街地とを対比できたので、短時間にもかかわらず、深谷という街を良く理解できたと思います。今は深谷で煉瓦を造っていないというのは残念です。小規模でもいいので、陶芸のように煉瓦造りを体験できるところがあると面白いのではないのでしょうか (K.T)。

○ NPO 深谷にぎわい工房の皆様には、一日中、お世話になりました。深谷はネギとレンガと渋沢栄一ぐらいしか知りませんでしたが、地元でもレンガが使われていることに感心しました。レンガは日本人の心をくすぐるものです。うまく活用して欲しいです。じわりと深谷市民に活動を広げていっていくと、賑わいも出てくると思います (K.Y)。

○深谷にぎわい工房の皆さんには、丁寧な案内をしていただきありがとうございました。深谷には、渋沢栄一という現在の商業・産業・地域の発展に寄与するブランドと、レンガの建物があります。それらを、にぎわい工房のメンバーが意見交換会で言われたように、地元の皆さんにとって魅力あるものとして再生していけば、一層住み心地の良い町になると思いました (S.T)。

○深谷を案内していただき、現在はとても地味だが、中山道の宿場町、渋沢栄一の出生地でありその遺構や、煉瓦を製造した実績と窯が残っているなど、深い歴史と資産が残る特徴的な面白さのあるまちであることが分かりました。

しかし、現在 J R 駅前に降り立っても、これらを感じ取ったり見ることは容易ではなく、まちなかも区画整理事業が途中段階でしかも進捗が遅く、まちなみとしての魅力は伝わってきません。人影も非常に少ない状況です。

実際にどのようにすればまちなかに住み易くなったり商売をしていけるようになるのか、NPO が市民と市の間に入って協働してひとつずつ取り組んで改善していけば、きっと自慢できる暮らしやすいまちになるのではないかと期待します (G.Y)。

○区画整理がこのように街を破壊していくとは。100 年後には便利な街になっているか

も知れませんがやはり歴史にはぐくまれた空間を大切にする贅沢な街であれ (O.R)。

○ 10 年前の賑わいから半減というのは恐ろしいですね。10 年後にまたそうならないためにがんばりましょう (H.T)。

○予想外に多くの煉瓦建物が残っていました。次訪れた時に一つでも美しい姿をとり戻していれば、しだいに町のあちこちに煉瓦の建物や歩道が見られるようになれば素晴らしいですね (T.E)。

○渋谷栄一をNHK大河ドラマの主人公にし、深谷の良いところをもっとPRできればよいと思いました (O.S)。

○渋谷栄一の偉大さを改めて知りました。深谷はいい街だと思います (Y.K)。

○深谷は行田みたいにあるいはそれ以上に潜在的なものがいろいろ (※) ありながら、まだまだこれからという感じがするんで、今後面白くなっていくんじゃないでしょうか。すごく興味深いところです！※ (いろいろ) 渋谷栄一、レンガ、ねぎ、ガーデンシティ、煮ぼうとう、NPO (M.H)。

○初めて深谷に行きました。オプションの“ホフマン釜”が普段聞けないお話が聞けて印象的でした。市内循環バスで、まわれたら広く散策できると感じた。今さらからしれませんが、もっと駅舎について、『こんなところが素晴らしい』『歴史』『苦労』などアピールしてもよいのではないかと感じました (S.M)。

○遠かった……。神奈川も広いですが、埼玉県もかなり広いですね。ちょっとした小旅行気分を味わえました (電車さえ、乗換さえ、間違えなければ) (H.M)。

○まち歩き企画とまちの案内ありがとうございました。古河市から近い割には深谷市のことをあまり知りませんでした。古河市も隣の野木町にホフマン式シモレン工場があったためレンガ建物は縁があります。今後レンガを生かしたまちづくりの情報を共有できるとよいと思います (I.M)。

○今回、渋谷栄一から日本煉瓦創設、日本煉瓦と深谷の街、煉瓦が多く使用された深谷の街なか、という流れの見学でしたが、深谷は花、野菜、植木、食肉などの農業も県内有数です。ですが、農産物は郊外の直売所だと市街地と切り離されているように感じました。「深谷ねぎ」「ほうとう」それぞれ魅力的なものがあるのですが、1 番はどこかに譲っているような。煉瓦と農産物を街なかで融合していけるといいなと思いました。市内における農商連携がまちづくりと繋がれると地元への魅力が増すのではないのでしょうか (H.N)。

○駅舎を見てすぐに思ったのは、家族で数年前に出かけたアムステルダム駅舎です。東京駅をモデルとした現在の深谷駅から、東京駅がモデルとしたアムステルダム駅への連想は、誠之堂で伺ったレンガの「フランドル積み」(フランドルはオランダとベルギーの両方を含みますが) とともに、すっかり私の中で定着してしまいました。

そこから、将来、深谷市はアムステルダム市と姉妹都市となるべく、「レンガと緑とエコの街」をスローガンに、エコ都市宣言 (アムステルダムは港町ですが、レンガ造りの駅舎、チューリップをはじめとする花々を特産物とし、自転車道が完備) をすべく、努力していけたら、いかがだろうか、という所まで構想が広がってしまいました。

Co2 削減 25 %が打ち出された今の日本で、車道の拡幅のための都市計画などナンセンスでしょう (補助金だって凍結されるかもしれません)。今後は自転車道と歩道とレンガをあしらったベンチのある「人にやさしい」エコ時代の中山道に作り変えていくべきではないでしょうか？

具体的には、①レンガについて：現在、点在しているレンガ造りの建物の保存と今後の建設 (建物のごく一部でも) に向けて、市民への理解を求める (そのためには、市内

外の人々のツアーを企画して、その価値を地元の人にも知ってもらおう)。先週の朝日新聞に、地下のツアーが流行しているとありました。教育委員会に掛け合って、土日だけでも、開放してもらいましょう。

②緑（花と深谷のねぎやブロッコリーなどの農産物を含む）の拡張：駅前だけでなく、中山道の歩道部分などに、植木鉢を置くところから始める。現在の空き地を利用して、土日に地元の農家と提携して、「朝市」をはじめ、近郊住民に買い物に来てもらう。

③自転車ブームは今後もつづくと思います。川べりからホフマン釜まで。あるいは渋沢栄一をたどる通りなど、幾つかの自転車モデル・コースを作り、駅前で自転車を貸すことを試みる（駅前にタクシーばかり並んでいるようではいかがなものか？）。自転車部品など、専門店を誘致する。自転車にまつわりコンペ（幾つかの拠点を含め、きっちり1時間で回れば入賞して葱がもらえとか）実際に自転車散策が定着していけば、中山道に自転車専用道路を作る足掛かりになる。

こうした試みが毎年、少しずつでも進展していくことを願っています（O.J.）。

○深谷と言えばネギ、と思っていましたが、駅のホームに降り立ち、目の前に飛び込んできた駅舎に「これはすごい所に来た！」と期待に胸が膨らみました。午前中のオプションで、渋沢栄一関係の資源を中心に回りましたが、中でも、ホフマン輪窯という大変貴重な歴史的文化的資源の内部見学をさせて頂けたことには大変感謝しております。午後からは、NPOの方々を中心に中心街をご案内頂き、生活の場としての深谷を、そして区画整理事業が進んでいる実態を、まじかに感じました。今回、深谷を歩いて、深谷という街を知ったことを、ありがたく思っています。微力ですが、翌日から「深谷って煉瓦の街でいいところだから、一度行ってみて！」と語り歩いています。娘を連れておりましたので、皆様にご迷惑をおかけしたり、お世話になったりと致しました。また、ご挨拶もせず失敬し、失礼致しました。どうもありがとうございました（W.M.）。

○深谷市に24年間在住し、その後就職と共に転居して、10年を越える歳月が過ぎてしまいましたが、帰省のたびに少しずつ街が変わっていく様子が、寂しくもあり、また必然的なものかとも思っております。上柴地区にニュータウンができた頃、まだ小学生でしたが、上柴地区へ引っ越していく級友もそれなりにいて、私の通っていた小学校の私の学年は1つクラスが減ったりして、幼いながらも上柴地区への人口流入とそれによる他地区の人口減少を肌で感じたものです。また、上柴地区にイトーヨーカドーができて駅前からシャトルバスが運行されるようになり駅前や旧市街中心部に滞留する人が少なくなるとともに、深谷の七夕祭りも出店が少なくなるなど中心市街地の活力の低下も感じておりましたので、深谷にぎわい工場の皆さまの活動には心から感謝を申し上げます（T.K.）。

○深谷賑わい工場の皆さん、貴重な土曜日を私たちのためにおつきあい下さり、本当にありがとうございます。深谷の中心街で、いいものをたくさん見ることができました。かつてはもっと残っていたのですが、今あるものを大切に残し活かしていくことを、身の丈にあった方法で続けて下さい。きっと、理解者、賛同者が増えるでしょう。また深谷に応援に行きます。これからも、まちづくりを語り合いましょう！（O.R.）

○居住者の方々と、NPO深谷にぎわい工房でまちづくりに励んでいる方々との温度差を感じられました。この温度差を無くしていくためにも、例えば、今回のような企画を積み重ね、外の目を活用し深谷のまちの魅力を再発見しそれを、メディア等で発信することで、住民の方々に再度まちの面白さというものに気づいてもらうことが必要なのではないですか（I.Y.）。

（コーディネーターより）

○意見交換会では、10年前に比べ深谷の歴史的建造物が半減しているという発言にショックを受けました。また、区画整理事業は中心市街地に人口を呼び戻すために必要であるという地元の方の思いがあること。一方、たとえ街なか居住を進めても郊外の品揃え豊かな大型店やショッピングセンターで街なかの人も買い物をしてしまうこと。深谷の旧市街地のお店が郊外大型ショッピングセンターに勝てるのは、街やそのお店の歴史であるとの意見。したがって歴史を活かした商売を、そして市街地整備を進めるべきではないかとの議論が印象に残りました。

参加者の全体評価も、区画整理への評価が影響してか、同じ歴史がテーマの前回が行田まちめぐりの4.3点におよばず3.1点でしたが、参加者からは予想以上に熱い思いの提案がたくさん寄せられました。

よそ者のわずか1日のまち歩きの感想で思い違いの点もあるかと思いますが、よそ者だからこそ見えた点も有るかと思います。

上記の提案や評価などが、NPO 深谷にぎわい工房の皆さんをはじめ深谷のまちづくりに関わる皆さんに、ほんの少しでもお役に立てば幸いです。

NPO 深谷にぎわい工房の皆さん、ご案内、ご協力ありがとうございました（古里実）。



▲ 旧日本煉瓦製造（株）事務所前にて